

# コミュニケーションニュース

## Communication News

### 近畿大学校友会 東京支部会報

第11-1号

発行日

平成23年8月14日

支部長／宮川正博 編集・文責／広報委員会 連絡先／〒132-0021 東京都江戸川区中央2-31-10-404（株）正宗設備 TEL.03(3674)2472 FAX.03(3674)2486

ホームページアドレス <http://www.kindai-kouyukai-tokyo.com>

## 近畿大学校友会東京支部定期総会のご案内

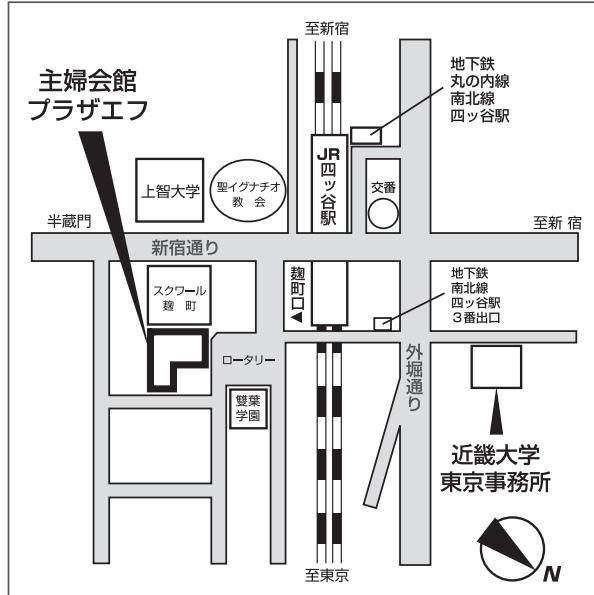
日時 平成23年9月15日（木）

場所 JR四ツ谷駅 麻町口前 主婦会館プラザエフ  
千代田区六番町15（7階カトレア）  
TEL／03-3265-8111総会 受付：午後6時  
開演：午後6時30分～9時

ゲスト 高砂親方、伊勢ヶ濱親方、若松親方、宝富士関、誉富士

会費 10,000円（総会費7,000円+年会費3,000円）

協賛品 抽選でプレゼントしますので、ご持参願います。

連絡先 近畿大学校友会東京支部 事務局  
TEL 03-3674-2472  
FAX 03-3674-2486

## 平成23年近畿大学校友会東京支部定期総会に寄せて

近畿大学校友会東京支部  
支部長 宮川 正博

今年は東日本大震災という未曾有の災害が発生しました。被災された方々には、こころよりお見舞い申し上げます。

復興までには長い年月がかかると思われますが、東京支部校友の皆様におかれましてもそれぞれの立場で途切れのない復興支援をお願い申し上げます。

又、校友会東京支部活動の方は近大四谷事務所でさまざまな分野での勉強会、一木会ゴルフコンペ、ちゃんこ鍋会と多くの催しをしております。しかし、近年参加者の減少、固定化が進み苦慮しております。各催しの案内を東京支部ホームページに記載しておりますので、ぜひご利用の上ご参加いただけるようお願いいたします。

近畿大学校友会東京支部公式ホームページ  
<http://www.kindai-kouyukai-tokyo.com>

## 伊勢ヶ濱チャリティゴルフコンペ・ 第64回一木ゴルフ大会のご案内

東京支部創設以来、皆様の協力（前相談役、中谷幹事）を得て、72歳になりつつありますが、ゴルフのお世話をさせていただいております。おかげさまで、会も64回を迎えております。また、創設当時から、歴代の支部長の八木相談役、前相談役、松永相談役は元気に大会に参加いただいております。このお元気とご協力にいつも感謝であります。ゴルフのプレーに対する、考え方も変わってきました、当初の頃は早くから、ゴルフ場に予約をして予約金を払っていました。欠席いたしますと、予約金を取られ、幹事はお金に苦労いたしました。当時はパーティー、賞品代は5,000円でした。しかも、プレーする場所は金額に関係なく、皆がプレーしたい、良いゴルフ場でした。

思いますのに、年齢を重ねましても、趣味を持ち皆で楽しむ事がありますと、いいのじゃないかと思います。昨日（7/8）も「上手さんを囲む会」が佐倉CCでガス会社の方が3組で催していただいております。定年後6回を迎えております。皆さんは「偉くなる人」が増えおります。参加される方も大変楽しんでおり、来年も宜しくと言ながら、二次会に向かっています。

昭和38年機械卒 上手 峰幸

|             |                                    |
|-------------|------------------------------------|
| チャリティゴルフコンペ | 日時 平成23年9月27日（火）                   |
|             | 場所 ヌーベルゴルフ倶楽部<br>金谷郷コース            |
|             | 集合 午前7時30分                         |
|             | 費用 20,000円<br>(プレー費、昼食、パーティー、賞品代込) |
|             | 連絡 上手 電話 047-430-1782              |

|          |                                |
|----------|--------------------------------|
| 一木会ゴルフ大会 | 日時 平成23年10月20日（木）              |
|          | 場所 総武CC（印旛コース）<br>OUT9時31分     |
|          | 会費 約14,000円<br>(プレー、パーティー、賞品代) |
|          |                                |

# 東日本大震災に想う

元産業理工学部客員教授・現広島大学講師（昭和55年建築科卒、昭和57年法律科卒）青木 伸雄

## 【はじめに】

ここ数ヶ月のメディアの中心ニュースは、そのすべてが東日本大震災のことばかりである。

地震や津波による被害は、東北三県の岩手、宮城、福島や茨城近郊までに及ぶ未曾有の大災害であり、それに原子力発電所の原子炉事故が加わり、3ヶ月以上たった現在ですら、その終息解決の目処も今だにたっていない現状である。

今回の震災は、地震、津波と原発事故の複合災害である。

原子力発電所の事故の発端は津波による天災であるといわれるが、はたしてそうだろうか考えてみる必要がある。

想定外の事故として、一方的に片付けられる問題ではなく、無責任な一時的な感情論で原発反対、中止ではなく国策として進められてきた我が国のエネルギー政策そのものを考えてみる機会であると思う。

好むと、好まざるを問わず、無資源国日本は、有限の化石燃料に頼るわけにはゆかいのが現実である。今回の東日本大震災の「地震と津波の被害」と「原発事故」は、結果として別問題としてとらえ解決策を求めることが必要あると愚考するので以下を述べることにする。

## 【地震と津波の被害経験】

地震と津波という点で考えると、我々は、三陸海岸の大津波を明治二十九年（1896年）、昭和八年（1933年）の地震後に地震津波として経験、さらに昭和三十五年（1960年）に南米のチリ大地震による大津波を経験している。このチリ大地震による大津波は、当時の気象庁は津波警報を発令していなかった。

いわゆる想定外の津波であるが、津波が日本の地震に寄らず三陸海岸に到達したという貴重な経験を先人はしてゐる。

若し、我々が謙虚に人間として敬虔な畏敬の心を持ち大自然に対していたなら、この未曾有の自然災害は避けられたのではないかと

愚考する。我が国は、世界有数の地震国であり、「山川草木悉有仏性」という自然に対する尊敬と畏敬の心を忘れ、傲慢ではなかつたかと反省すべきだと考え、教訓として生かすべきだと残念ながら愚考する。

先人の尊い経験と教えを生かすべきだと反省すべきである。

## 【原発事故と情報】

今回の原子力発電所の事故は、一般に津波による原子炉の冷却不良による事故として報じられ、天災であり想定外の事故とされているが…。果たして想定外なのか考えてみる必要がある。

同じ福島県内にある東北電力株式会社女川原子力発電所は、何一つ問題を生じていない現実は、何を物語るのか、考えて見る必要があるのではないだろうか。

原発事故は、我が国で経験したことが無いマグニチュード 9.0 という大地震による想像以上の津波が発生し、事故となつたと報じられ、余り詳細に情報公開がなされていない。

しかし、絶対安全という日本の原子力発電所の安全神話は崩れ去つた。

まして、自然界に存在しないといわれるブルトニウム 239 の飛散が観測された事実は情報公開され、十二分の対応をする必要があると思われる。

結果として言えることは、地震国日本ではマグニチュード 9.0 の地震が起り得るという事、津波も考慮した施設の設計が必要だということである。

地震国日本での原発の推進は、経済優先の設計より、安全優先の設計が配慮されるべきであると愚考する。

特に、古い原発は耐用年数を延ばして継続使用するのではなく、順次廃炉とする事が望ましく、定期検査を 13 ヶ月に 1 回から 2009 年 1 月から 18 ヶ月に 1 回、2014 年から 24 ヶ月に 1 回という検査基準の見直し、許可や検査機関の分離等も即刻実施すべきと考える。

これからは、科学が技術だという、別々の考



参考資料 google 公開画像より

え方ではなく科学技術の時代であり、ソフトとハードの融合によるより安全なシステム構築の時代であると考える。

そのためには、「不確実」、「不正確」な情報でなく、正しい情報を公開して事実では無い事に対して、何らかの原因から抱く間違った判断や思慮分別を生じる妄想を生じさせない事が重要である。

それは、メディアも含めて疑心暗鬼を生じさせない情報の提供が必要である。

例えば、放射能汚染での水質を考えた場合、学校のプールは文科省、水道水は厚労省、海水浴場は環境省であり、それぞれ「情報の統一と把握」→「判断」→「伝達の一元化」がなされない限り、右往左往するばかりで何一つとして解決されないのである。

そういう意味で原発事故と情報は一元化される事が望ましいと思われる。

## 【あとがき】

以上、色々と述べてきたが東日本大震災は、結果として多大な災害を我々にもたらしているが、これを貴重な経験として次世代に生かす努力をしてこそ、数多くの犠牲者に対する冥福へと繋がると思われる。

全てを想定外の事故、自然災害で一方的に片付ける事だけは避けるべきであり、それは、人間の驕り以外の何物でもないと愚考する。

早く、原発の冷却や汚染水の問題を解決して故郷へ帰れる事を期待したいが、まだまだ時間は掛かると思われる。

残念だが、「あせらず」、「おごらず」、「こだわらず」の仏教の教えで進みたい。

## 『第12回 やみ鍋の会』に参加して

実施日：23年6月26日（日曜日）夜の部 午後6時30分開演

開催場所：浅草ことぶ季亭

参加者：4名

『やみ鍋の会』とは一見すると皆で度胸試しの鍋をつつく会と思へますが実は、月亭方正さんを中心とした東西若手落語家 12 名の競演の高座です。

この会を知ったのは 6 月 2 日『高砂部屋ちゃんこ会』に 1998 年商経学部経営学科卒の大谷 亮君が参加されたのがきっかけです。大谷君は現在落語家の鈴々舎馬風師の 9 番目の弟子として鈴々舎やえ馬の芸名で高座に上がり、『やみ鍋の会』の主要メンバーです。また 11 月には二ツ目に昇進されます。

会場は大入りで、高座では古典から新作まで又人情話など幅広く演じられ、高座と客席が大きな席亭と違い大変近く一体となった雰囲気でした。当会は毎月一回開催されるそうでこれからは応援していこうと思います。（ホームページ公開）

昭和49年経済学部卒 近森 英文



▲鈴々舎やえ馬さん

## 近畿大学校友会東京支部勉強会の報告

実施日：平成23年4月4日

開催場所：近畿大学東京事務所（四ツ谷）

講師：特定社会保険労務士・行政書士 丹山事務所 所長 丹山 宏様

講演内容：年金について

### 勉強会を振り返って

昭和49年経済学部卒 近森 英文

四ツ谷事務所で一木会勉強会が開催されました。私たちに身近な『年金について』講演が行われました。

参加者は13名。今回この講演議題を選んだ理由は、みのもんたさんの『サタディズばっと』で毎週取り上げられていたからです。

内容は、年金の種類、年金の受け取り方などで（年金を受け取るには市区町村の窓口に『裁定請求書』という

支給申請書を提出する必要がある）又、繰上げ・繰下げ支給のメリット・デメリットについてでしたが身近な問題だけに活発な質疑が交わされ大変有意義な講演でした。



▲ 勉強会の様子

## 伊勢ヶ濱部屋(宝富士関、誉富士)との一コマ



▲ 部屋の集いで



▲ 食事会にて  
▼ 朝稽古の様子



### 伊勢ヶ濱部屋チャンコ会の案内

日 時：平成23年9月1日（木）  
午後6時～7時30分

場 所：伊勢ヶ濱部屋  
江東区毛利1-7-4

会 費：6,000円  
連絡先：西崎 電話 0476-92-2502

※電話連絡の際は、  
くれぐれもお掛け間違いないようお願いします。

## 近畿大学校友会愛知県支部定期総会に出席しました。



▲ 愛知県支部定期総会の集合写真

平成23年5月15日（日）「金のしゃちはこ」そびえる名古屋城の隣にあるウエスティンナゴヤキャッスルで行われた、校友会愛知県支部総会に、幹事の西崎和夫先輩（58年卒）と二人で出席しました。他支部においても校友会支部活動、運営には役員諸先輩方のご苦労が伺えました。

総会後、懇親会に入り、マジシャン DAIKIさんのすばらしいマジックと共に和やかな楽しい時を過ごし、愛知県支部の校友諸兄姉との親睦が十分にかなった会となりました。

最後に原田支部長、伊藤梅友会支部長に感謝いたしますとともに今後も一層の交流をお願いいたします。

昭和46年工卒 宮川 正博

## 「都内レトロ日帰ツアー」日帰りツアー同好会

「都内レトロ日帰ツアー」の報告の前に、東北地方を襲った地震、津波の被害に遇われた方々に心よりお見舞い申し上げ、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

今回の災害は、今まで我々国民が知らなかった様々な事柄もまた掘り起こす事になりました。その中で、原子力発電所の件について私は天災ではなく人災だと思います。テレビニュースでトップの方が記者会見で「津波は想定外でした」とほざいたことに私は大いなる怒りをおぼえます。かの地は昔から何度も津波の被害に遭われています、古文書にはそのことが詳しく記述されています。また発掘調査においても、そのことが証明されています。五十年前には「チリ地震」もあったではないか、かなりの高学歴をお持ちの方だそうだが「愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ」と言う有名な言葉は学ばなかったようである。

首相を始めトップに立つ人がこんな人間だと結果はこうなる、前の政権の首相はマンガばかり読んでいたため政権まで取られてしまった挙句、渋谷の女子高生にまで「漫画ばかり読んで少しは漢字を勉強しろ！」

と全国放送ニュースで言われていた。

とまれ

六月十四日に、日帰りツアー同好会は「はとバス都内レトロバスツアーバス」に参加しました。メンバーは前支部長の松永先輩をはじめ男性四名女性六名の十名です。

当日は、天気も晴れ絶好のツアー日和で、浜松町を出発したバスは

今注目の「スカイツリー」の横を抜け名所を巡り、目的地の葛飾柴又に着き、一時間ほど門前の商店街を歩き帝釈天にお参りしました。バスガイドさんは多分私と同年の方で、それは綺麗な物腰と美声で名所の案内とレトロな歌を二十曲も唄ってくれました。勿論、皆一緒に歌いました。ガイドさんは、もう一人平成生まれの方も乗車していて、バスの中は女だらけ。それはもう花盛りで艶かしいことこの上なかったです。終点は東京駅で、ツ



▲写真左から

志賀 良典（51水産卒）、松永 稔之（37機卒）、西崎 和夫（58司卒）岡崎 洋子（53豊岡卒）、尾上 良和（50法卒）

ア一代 2,900 円とビールお茶お菓子代 200 円の計 3,100 円を精算したのち、我々は時間が余ったので、空襲にも焼け残った銀座ライオン七丁目店まで銀プラして行き、またまたレトロ気分を満喫して工場直送の旨いビールを飲み二次会も大いに盛り上がりました。次は是非「屋形船」をとのリクエストもいただき、目下計画中です。その節はどうぞ多くの参加をお願い致します。

昭和 51 年水産卒 志賀 良典

## 高砂部屋ちゃんこ会に参加して

昭和 58 年通司卒 西崎 和夫

6月2日(木曜日)に、東京支部恒例の高砂部屋ちゃんこ会に、大勢の校友・ゲストの仲間。特に、落語家の鈴々舎やえ馬君(平成9年経営卒・将来の真打ちを目指す?)。また、遠路校友会静岡県支部相談役の遠藤能文さんも参加されました。毎回、味付けが異なる相撲部屋特有の美味しい、ちゃんこ鍋とお酒・ビール等、高知特産の果物、小夏(甘味と爽やかな酸味があり、美味しい)を頂きながら、多いに語らい楽しい一時を過ごしました。

今年は、何かと世間を賑わした大相撲会の話題について、高砂親方の話に共感する部分が多いありました。

半年ぶりの本場所となる大相撲名古屋場所が、信頼回復の機会であり、力士一人ひとりが品位ある相撲に精進し、国技再生を取り戻すことを心から願っています。

何時も、一ノ矢マネージャー・若い力士の皆さんに、お世話になり感謝申し上げます。



左：松本 憲一先輩 右：遠藤静岡支部相談役

## ご協賛いただいた方々

|                     |                      |                       |
|---------------------|----------------------|-----------------------|
| 前 進<br>昭和 31 年 商卒   | 松永 稔之<br>昭和 37 年 機械卒 | 八木 十洋造<br>昭和 28 年 機械卒 |
| 赤坂 廣政<br>昭和 32 年 経卒 | 上手 峰幸<br>昭和 38 年 機械卒 | 上田 彰一郎<br>昭和 47 年 商卒  |
| 宮川 正博<br>昭和 46 年 工卒 | 村本 克之<br>昭和 36 年 機械卒 | 近森 英文<br>昭和 49 年 経卒   |

## 近畿大学校友会東京支部への個人様協賛

近畿大学校友会東京支部へのご協賛、温かいご支援、ご協力大変ありがとうございました。

今後ともよろしくお願ひいたします。